

令和6年度 学校経営計画・学校評価

□4月4日提出

□10月3日提出

☑3月14日提出

学校番号	39	大方	高等学校	課程	通
------	----	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針 ① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○ 高校卒業に対して強い意志をもった生徒。 ○ 基礎学力やさらに学力を伸ばそうとする意欲のある生徒。 ○ 多様な価値観や自他を尊重し、その違いを認めることができる生徒。 ○ 基本的な生活習慣が身に付き、学校や社会のルールを守れる生徒。 ○ 自学自習ができ、計画的に学習に取り組める生徒。 ○ 自己を見つめ、自己の将来を考え、前向きに学習に取り組もうとする生徒。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ 社会で生きるために必要となる基礎学力とコミュニケーション力の育成。 ○ 多様な価値観・個性を尊重し、社会に適応できる力の育成。 ○ 学ぶ意欲と、自己の目標を見けようとする意欲の育成。 ○ 社会に適応できる知識と視野をもち、自己を見つめ、将来を見通す力を育成。 ○ 社会的自立に必要な勤労観や職業観を育成。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○ 個々の進路希望に応じた進路保障と、学校設定科目「トレーニング」(国、数、英)で、基礎学力の定着と向上を図る。 ○ 学習内容を理解しやすいスクーリング(面接指導)を展開する。 ○ 学習の意欲を向上させるレポートの作成を行い、一人一人のレポートに対して、理解しやすい添削指導を行う。 ○ 特別活動(学校行事・LH・生徒会活動)の時間を通して、コミュニケーション力の伸長を図る。 ○ 個人に合った学びを設定し、3年間での卒業を目標とする。

学校関係者評価		
【学力の向上】	評価	【 B 】
レポート予習率が下がったものの、概ね目標を達成できている。		
【社会性の育成】	評価	【 B 】
・全体的に成果がみられる。 ・特別活動の出席率が、前期に比べ伸びているが、その中で身につける学習成果の伸びがもう少し欲しい。		
【チーム学校】	評価	【 B 】
・学校の魅力化と長時間勤務の解消に向けての取り組みに不十分さがあった。 ・時間外勤務が後期に入り、減っていることや、教職員が協力して業務にあたっていることで、ストレスのない職場と捉えることができる。		

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○基礎的・基本的な知識及び技能 ①出席率の向上を図る R6年度目標85%【R5年度 80.9%】 ・出席率向上(必時間数充足生徒と不登校傾向生徒)。 ・スクーリング出席率向上による、レポート内容の理解と提出。 ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む) ②レポート予習率の向上を図る R6年度 95%【R5年度 89.9%】 予習率向上による、単位修得と観点Ⅲの育成	①出席率の向上を図る ・授業改善(観点Ⅱの問題配分と説明に対する時間確保) ・支援会での指導方針の確認 ・面談や連絡、学校通信を通しての出席啓発 ②レポート予習率の向上を図る ・各教科担当からの、スクーリング点と観点別評価の周知。 ・共有システムによる予習状況の確認(声かけ) ・レポートへの探究的な問題を採用(観点Ⅱ等)	B ○基礎的・基本的な知識及び技能 ・出席率の向上 R6年度 84.2%【R5年度80.9%】 ○学び続ける意欲(学習習慣を含む) ・レポート予習率の向上 R6年度 81.7%【R5年度89.9%】 ・将来の為に学習を頑張っている 93% ・自主学習は必要だと思う 91% ・家庭学習時間1日1時間以上 52%	○学ぶ態度の向上に目標を変更(出席率向上からの変更) ①②学習意義の啓発に力点(卒業資格+学ぶ力) ②レポート評価の見直し検討(新課程の目標をより意識する)	B ○基礎的・基本的な知識及び技能 ・スクーリング出席率(前期84%、後期79%) ○学び続ける意欲(学習習慣を含む) ・レポート予習率 72.4%(↓) ・将来の為に学習を頑張っている86%(↑) ・自主学習は必要だと思う 95%(↑) ・家庭学習1日1時間(週7時間)以上50%	レポート予習率の低下に対応して以下の方法で取り組む。 ①自学の意義についての発信(授業・LH等) ②レポートを重視した評価方法に変更 ③レポートの早期返却(返却ルールの変更)
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等含む)	○コミュニケーション力(不登校経験者 74.7%) ①特別活動の出席率向上を図る R6年度 80%【R5年度73.3%】【R5年度前期48.3%】 特活出席による、コミュニケーション力の育成。 ○キャリアデザイン力 ②総合的な探究の時間の出席率向上を図る R6年度 90%【R5年度 83.8%】 総合的な探究の時間における、進路学習の出席率を向上させ、卒業時の進路決定を図る。	○ 特別活動の出席率向上を図る ・声かけや、電話やメールによる出席の促し ・SC、SSWと連携しながらの定期的な面談 ・学校行事アンケートの実施と計画(事前・事後) ・ボランティア活動による地域域貢献等 ・高知県オリジナルアンケートの活用(問20・21・22・23) ○ 総合的な探究の時間の出席率向上を図る ・就職・進学に向けた準備を前期内容に盛り込む ・高知県オリジナルアンケートの活用(問26・27・28・30) ・ホーム主任による情報提供と進路意識の育成	B ○ コミュニケーション力 *不登校経験者 74.7% ・特活の出席率:R6年度前期 43.8% ・違い(立場や意見)を理解しようとする 94% ○キャリアデザイン力 ・総合探究の出席率 84% ・目標と手順を考え、努力できる 91% ・最後まで考え、行動できる 96%	①特活の目的の再確認 ・主体的で協働的な活動機会の確保 (生徒支援は見守りに重点) ②総合探究の内容の検討 ・進路的な内容を継続 ・個人の段階に応じて対応 ・自己を見つめる言語活動 *自己評価数値に目標基準を変更	B ○コミュニケーション力 ・行事での主体的で協働的な活動の増加。 ・違いを理解しようとする97%(↑) ・特活出席率61%(↓) ○キャリアデザイン力 ・総合探究の出席率89%(↑) ・総合探究での自己探究(在り方・生き方・就労) ・目標と手順を考え、努力できる92%(↑) ・最後まで考え行動できる90%(↑)	○コミュニケーション力 行事等での主体的な活動機会を増やすことによって、協働する場面が増加したことで、行事等では生徒に任ずる場面を増やしていく。 ○キャリアデザイン力 総合探究での自己探究によって、自己の現在や将来についての考えが深まったので、自己探究を継続・発展させる。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 R6 問20 50%(R5 42.9%) ○地域・関係機関との連携	○社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 県オリジナルアンケート問20・21の向上 R6 問20 50%(R5 42.9%) 問21 40%(R5 32.8%)	・ボランティア活動を学校行事とし地域貢献を図る(役場・全日制の地域連携コーディネートへの連携) ・外部機関との連携 はた若者サポステと連携し、就労していない生徒をジョブカフェやハローワーク・中村高等技術学校へつなげる	B ○社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 問19地域や社会の為にすべき事を考える 79% 問20地域や社会の情報を得ている 84% 問21地域(ボランティア)活動への参加 46%	○仕事(アルバイト含む)に就いている生徒が70%前後→社会との関わりを仕事を通じて考える事が効果的 ・有職生徒 社会との関わりを振り返る学習内容を検討 ・無職生徒 就労や地域活動等の啓発をサポステと連携し進める	A ○社会的自立・社会参画の為の資質・能力 ・地域や社会の為にできる事を考える74%(↑) ・地域や社会の情報を得ている 85%(↑) ・地域(ボランティア)活動への参加 51%(↑)	・サポステやジョブカフェと連携し、自己を振り返りながら生き方・就労・将来を考えることができた。 ・就労している生徒が多いので、次年度は就労を通じた社会参画について考える機会を設ける。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力	・レポート作成 観点Ⅱの問題について、タブレットの活用をさせる ・タブレットの活用とレポート作成について校内研修の実施(9月・2月)	B ・観点Ⅱ(思考・判断)問題の工夫 ・タブレット持帰りを解禁し、活用を促した ・タブレット等の授業外学習活用 74%	・レポート用紙での課題の工夫を継続 ・WEB上や生徒の自宅地域周辺での学習活動の研究 ・オンライン課題等の検討	B ○言語能力や情報活用能力 ・学習課題(思考・表現)の工夫継続 ・教員間での課題や授業方法の共有 ・タブレット等の授業外学習活用 66%	・複数の教科で、レポートにおける言語活動を増やす工夫ができ、少しずつ生徒が言語活動や自身の考えを記述できるようになっている。 次年度もこの工夫を継続する。

		取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ・生徒の学習ベースに応じた学習環境を整え、希望進路に向けた力を育成する。 ・ボランティアや地域活動、資格の取得を推進し地域や社会に貢献できる人材を育成する。	①職場体験等の実施 ②月・火曜日の進学・就職に向けた補習 ③情報関係や英検等の資格取得者数 ④校内研修等の開催・参加状況 ⑤行事で実施するボランティア活動への参加状況	①サポステと連携した職場体験の募集 ②進学・就職希望者への定期的な補習 ③資格取得に向けた補習の実施 ④黒潮町の制度活用への周知と促進 ④校内研修会の内容充実と参加促進 ⑤ボランティア活動における黒潮町との連携	B ①サポステと連携中(実施) ②進学・就職希望者への補習(実施) ③資格取得に向けた補習(実施) ④黒潮町の制度活用への周知(実施) ④校内外研修会(防災・探究)(実施) ⑤ボランティア活動に対する外部連携	①サポステとの連携継続(行事・総探等) ②③補習(進学・就職・資格)(継続) ④校内研修会の参加(継続) *登校日数と生徒の通学範囲を考えると、黒潮町との連携は限定される	A ①サポステとの連携や職場見学の実施 ②進学・就職希望者への補習(実施) ③資格取得の啓発と補習(実施) ④校内外研修会(防災・探究など)(実施) ⑤卒業記念誌の充実	・進学や就職に向けての支援によって、生徒の進路活動が活性化された。 ・卒業記念誌を充実させることができた。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ・法令遵守 ・高い倫理観を身に付ける。 ・不祥事を防止する。	①現状課題としての超過勤務の存在 ②校内研修の実施(年2回) ③不祥事防止委員会(月1回) ④個人情報等の漏洩防止	①個人情報漏洩防止標語を掲示(月1回) ②ハラスメント等の相談窓口の掲示(職員・生徒対象) ②学校評価アンケートの活用 ②不祥事防止に向けたチェックリストの実施(年2回)	A ①標語を掲示 ②ハラスメント相談窓口の掲示(職員・生徒) ②学校評価アンケートの活用 ①②不祥事防止チェックリストの実施(2回) ①②不祥事防止委員会の実施(毎月)	①標語掲示と相互声かけの継続 ①窓つき封筒(レポート用)の検討 ②チェックリスト実施	A ①標語掲示と相互声掛けの継続 ②校内研修の実施(防災・探究など) ①②不祥事防止チェックリストの実施(2回) *窓付き封筒の導入は今回は見送り	①標語掲示と相互声掛けができている。 ②校内研修や不祥事チェックリストの実践ができている。 次年度も不祥事防止に向けて取り組みを続ける。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 国の定める労働時間を遵守し、職員のライフワークバランスを整え、職務の質を高めるとともに職員の健康の維持増進を図る。	①夏季休業中の休暇取得期間の設定 ②年次休暇の取得(5日以上) ③勤務時間外の勤務(40時間以内/月) ④分掌業務の分担状況	①②③毎月の取得状況の確認と休暇取得の推進 ③管理職による定時帰宅の推進 ④分掌業務等の業務分担を行い、他の職員の協力を相互に得る環境と雰囲気づくり	C ①実施(夏季休暇の取得率84.7%) ②年休取得は、教員間で差がある ③ほぼ毎月、超過勤務がある(2名程度) ④職員間の協力は出来ている	・業務の精選や業務分担の部分的な見直しを検討	B ①夏季休暇の取得率84.7% ②年休取得についてはほぼ目標達成。 ③会議の進行方法の改善(短縮と共有促進) ③後期は超過勤務はやや低減 ④職員間協力と相互補完はできている。	・支援会では会議進行の改善により、時間短縮と情報共有の高まりが両立できた。 ・超過勤務の低減をめざし、業務改善を進める。